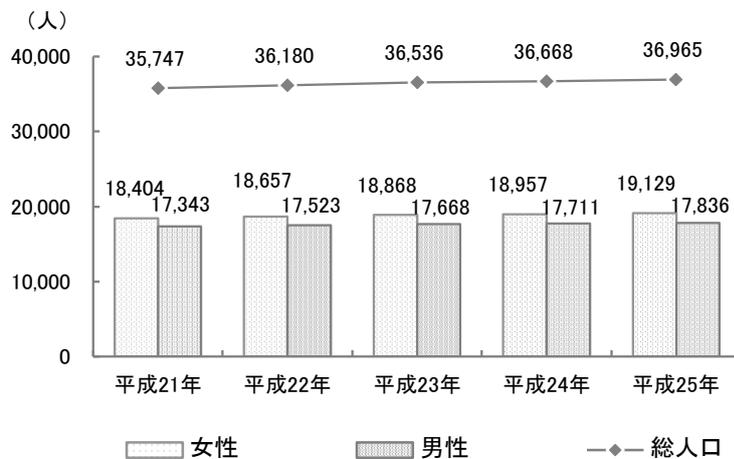


(1) 人口の状況

精華町の総人口は漸増傾向にあり、平成 21 年から 25 年の 5 年間で約 1,200 人増加しています。人口を男女別にみると、男性よりも女性が多い傾向が続いています。

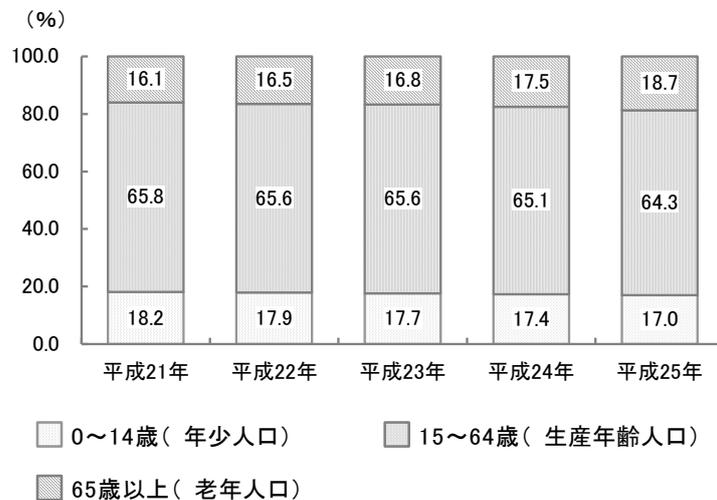
図 性別総人口の推移



資料：住民基本台帳（各年 3 月 31 日現在）

年齢 3 区分別人口構成比をみると、0～14 歳（年少人口）の割合が減少し、65 歳以上（老年人口）の割合が増加する傾向がみられます。

図 年齢 3 区分別人口構成比の推移

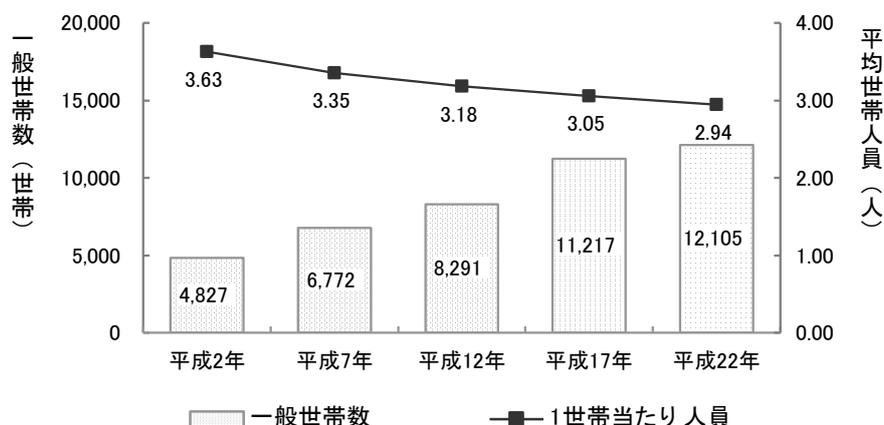


資料：住民基本台帳（各年 3 月 31 日現在）

(2) 世帯の状況

一般世帯数は急激な増加を続けており、平成2年から平成22年の20年間で7,000世帯以上増加しています。しかし、平均世帯人員は減少を続けており、平成22年には2.94人と3人を下回っています。

図 一般世帯数と世帯人員の推移

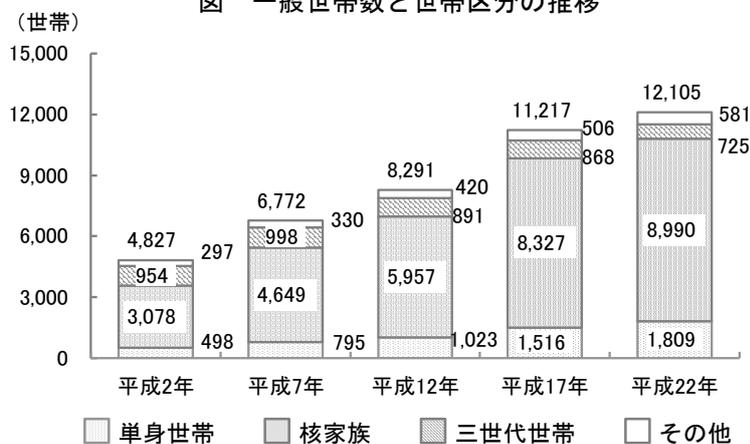


資料：国勢調査

(注) 一般世帯とは病院・介護施設などへの入所者を除く世帯

世帯区分の推移をみると、一般世帯数の急激な増加に伴って、核家族、単身世帯が急激に増加しており、平成22年には、各家族は平成2年の約3倍、単身世帯は平成2年の約4倍となっています。一方、三世帯世帯は減少傾向をみせています。

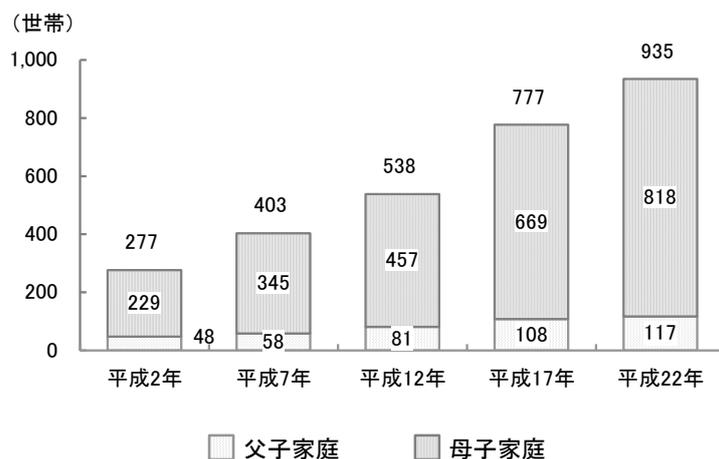
図 一般世帯数と世帯区分の推移



資料：国勢調査

ひとり親家庭の数は父子家庭、母子家庭とも増加しており、母子家庭は平成2年から平成22年の20年間で約3.6倍になっています。

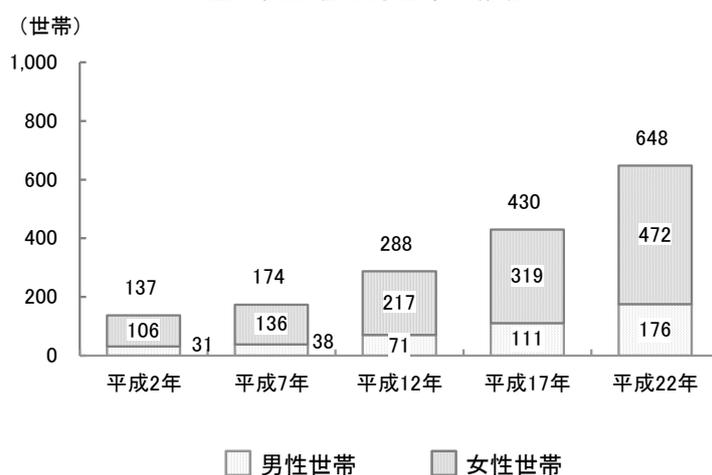
図 ひとり親家庭の推移



資料：国勢調査

高齢者単身世帯の数も、増加傾向にあり、平成2年から平成22年の20年間で約5倍となっています。

図 高齢者単身世帯の推移

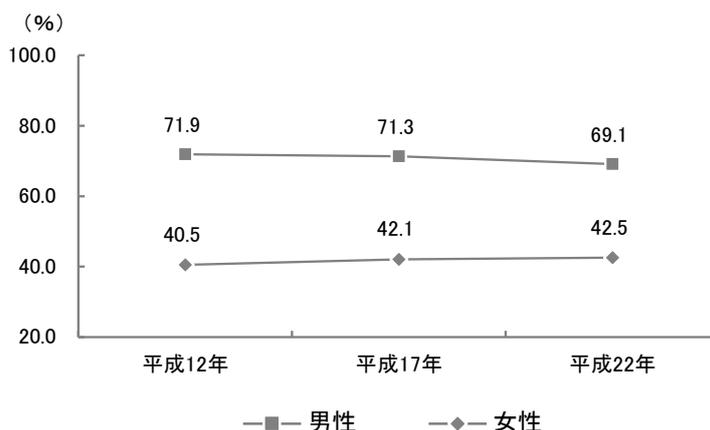


資料：国勢調査

(3) 就労の状況

性別就業率をみると、女性の就業率は依然として男性を下回っています。もっとも、男女の就業率の差は、少しずつですが縮まる傾向がみられます。

図 性別就業率の推移（精華町）



資料：国勢調査

女性の就業率を年齢別でみると、30歳代を底とするM字カーブを描く傾向が続いており、全国と比較しても落ち込みは大きくなっています。しかし、30歳代での就業率の落ち込みは徐々に緩やかになっており、40歳代以降の就業率も高くなる傾向が見られます。

図 女性の年齢別就業率の推移（精華町）

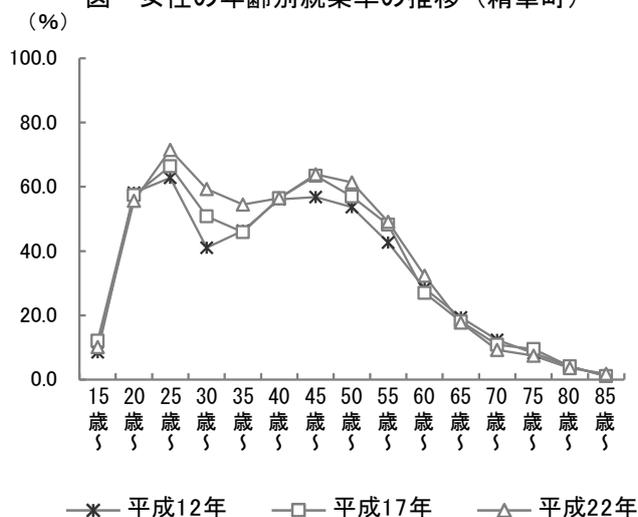
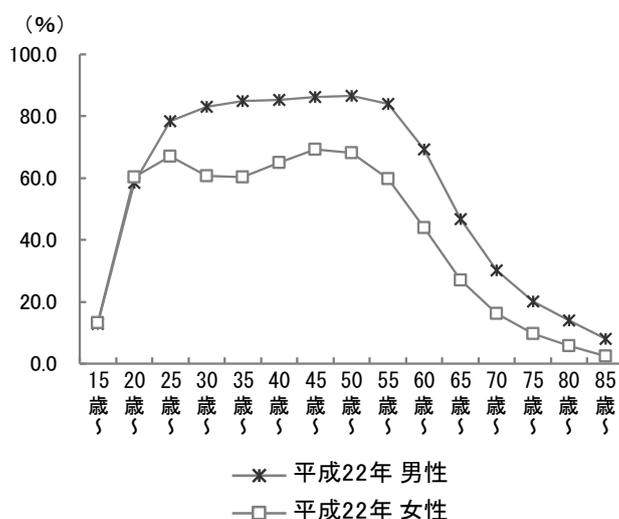


図 男性・女性の年齢別就業率（全国）



資料：国勢調査

(4) 政策・方針決定過程への女性の参画状況

審議会等における女性委員の割合の推移は、年々高くなっており、平成24年度以降は3割弱となっています。もっとも、国や京都府と比較すると、依然として低い傾向が続いています。

図 審議会等における女性委員の割合の推移（精華町）

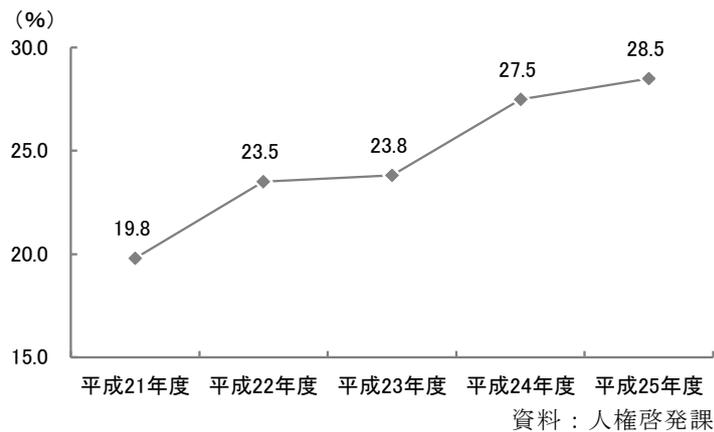
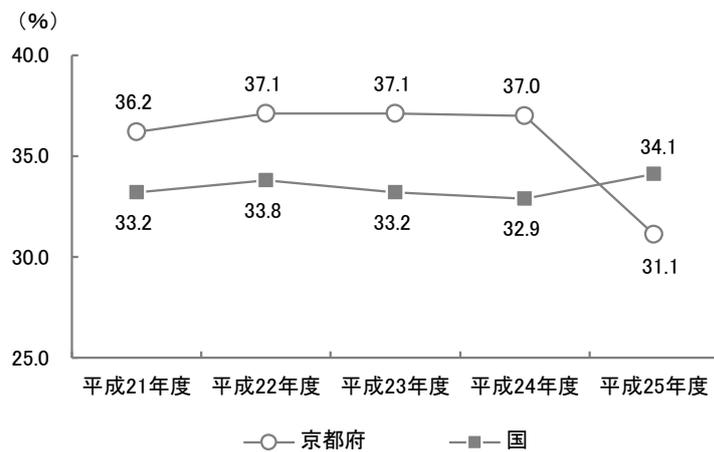


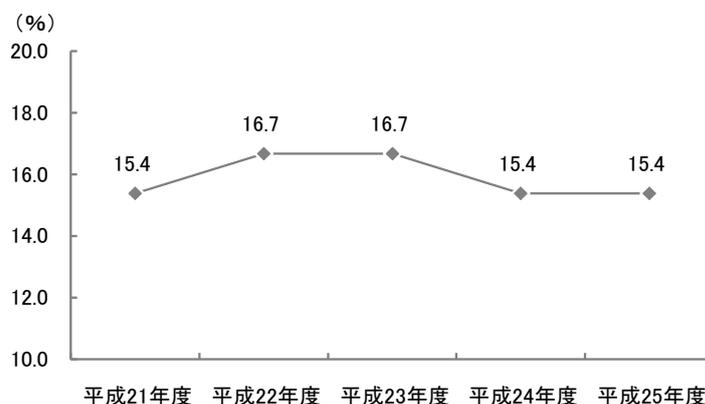
図 審議会等における女性委員の割合の推移（国、府）



資料：男女共同参画白書（国）、
男女共同参画に関する年次報告（京都府）

女性のいない審議会等の割合は、過去5年においては大きな変動はなく、約15%から17%の間で推移しています。

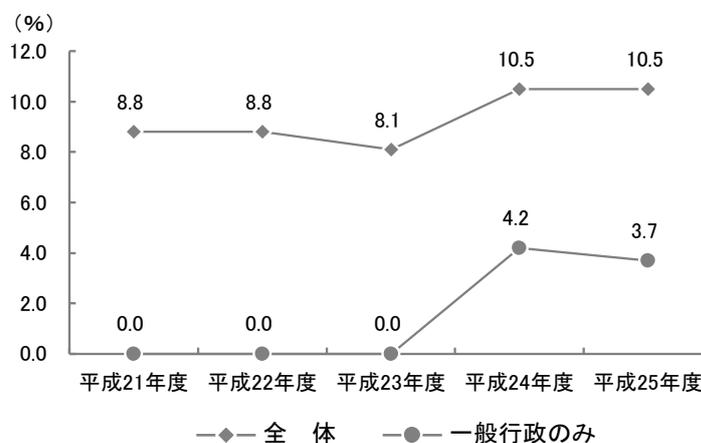
図 女性委員のいない審議会等の割合



資料：人権啓発課

町の管理職（課長職以上）における女性の割合は、町全体で10.5%と管理職登用が進んでいない状況です。

図 町の管理職（課長職以上）における女性の割合

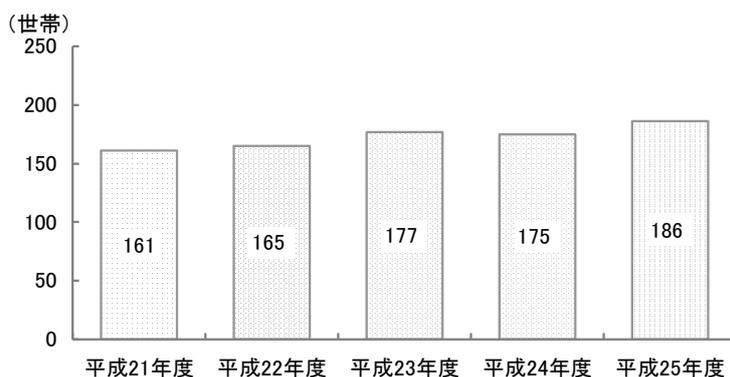


資料：人権啓発課

(5) 男女の健康づくりや生活支援の状況について

生活保護世帯の数は増加傾向にあり、平成21年から25年の5年間で25世帯増加しています。

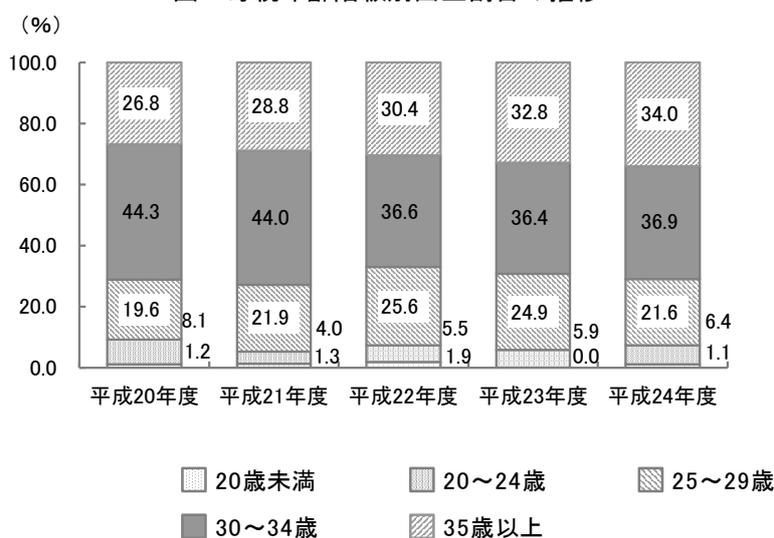
図 生活保護世帯の推移



資料：福祉課（各年12月31日現在）

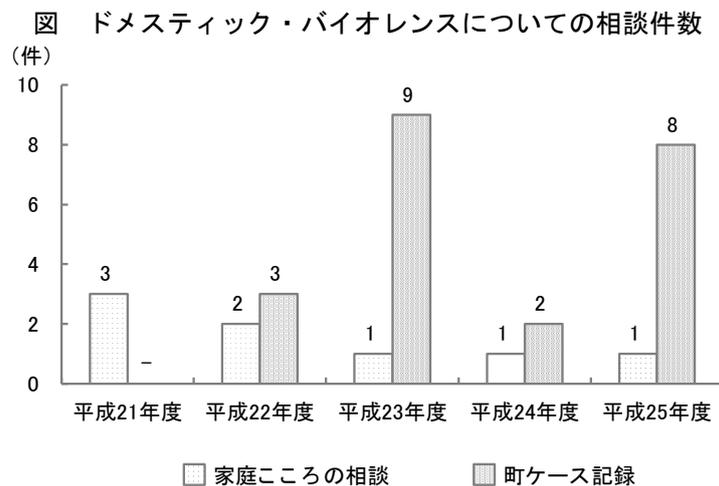
母親年齢階級別出生割合は、30～34歳での出産の割合が減少するとともに、35歳以上での出産の割合が増加しており、いわゆる晩産化が進んでいることが伺えます。

図 母親年齢階級別出生割合の推移



資料：京都府保健福祉統計

ドメスティック・バイオレンスについての相談件数は、家庭こころの相談件数は平成 25 年には1件と多くはありませんが、町のケース記録では8件となっており、ドメスティック・バイオレンスの被害にあっても相談しない人がいることが伺えます。



資料：人権啓発課